

そよ風



- 1 ~ 2 平成 25 年度福祉サービス第三者評価結果
- 3 院内研修計画
- 4 ゆったり通所デイ・カルチャークラブ
- 5 多摩スマイル・行事とボランティア募集のご案内
- 6 全国施設長会議
- 7 日本小児神経学会・国際協力事業団 (JICA)
- 8 療育活動
- 9 栄養科行事食
- 10 人事異動

■ ■ 平成 25 年度福祉サービス第三者評価結果 ■ ■

- 1 評価機関名 特定非営利活動法人 とうめい福祉推進ネット
- 2 受審したサービスの種別 障害児入所支援 (旧重症心身障害児施設)
障害児通所支援 (旧重症心身障害児 (者) 通所施設)

3 評価の結果の概要

(1) 障害児入所支援

①特に良いと思う点

- ・ 整った研修、事例研究の促進、テーマ別改善運動の展開など数々の職員育成と運動を通じた活性化によりサービスの質が一層高まっている。
- ・ 通所療育、短期入所、医療入院など諸々の形態を通じて在宅障害者への支援を積極的に行っている。
- ・ 利用者が多様な経験を積めるよう職員が積極的に創意工夫を凝らして新しいサービスの提供に努めている。

②さらなる改善が望まれる点

- ・ 絶えず原点に戻り接遇を始めとする基本的支援技量の振り返りを行い、より優れた支援の提供に努めることを期待したい。

- ・整備に着手したマニュアル類については、優先順位を定め順次計画的な整備促進が望まれる。
- ・利用者の生活環境面の改善、安全安心の確保の上などから施設のハード面での大規模改修を急ぐことが求められる。

③センターが特に力を入れている取り組み

- ・利用者の健康を維持するための支援を行っている。
- ・利用者の意思を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている。
- ・職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる。

(2) 障害児通所支援

①特に良いと思う点

- ・院内研究報告会やテーマ別改善運動が積極的に展開されて利用者サービスの向上、業務効率の改善に大きな効果を上げている。
- ・安全安心な環境の下に利用者の療育を提供するため多くの委員会などの活動が計画的に展開されている。
- ・利用者が多くの新しい生活体験、社会体験を得られるよう職員が自由な発想で院外療育活動を積極的に企画、実行している。

②さらなる改善が望まれる点

- ・絶えず原点に戻り接遇を始めとする基本的支援技量の振り返りを行い、より優れた支援の提供に努めることを期待したい。
- ・バス送迎に当たっては利用者や添乗職員の身の安全を第一に、随時送迎の安全確保のための振り返り、点検を行うことが望まれる。
- ・利用者の生活環境面の改善、安全安心の確保の上などから施設のハード面での大規模改修を急ぐことが求められる。

③センターが特に力を入れている取り組み

- ・利用者の健康を維持するための支援を行っている。
- ・事業所の機能や福祉の専門性を活かした取り組みがある。
- ・職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる。



平成 26 年度 看護部院内研修について

看護部の平成 26 年度院内研修を紹介します。センターに入所されている長期利用者の方は、毎年、年齢を重ね医療的ケアが少しずつ複雑になってきております。

また、短期入所の方や医療入院の方も、低年齢化となり高度の医療を必要とする方が多くなってきています。このような状況の中で、安全で安心できる療育環境を整備し、質の高い看護療育の提供ができる職員の育成をめざし、院内教育を企画しています。看護師・保育士・指導員がそれぞれの専門性を活かして実践ができ、仕事を通して成長ができるような内容になっています。

平成 26 年度院内研修計画一覧

研 修 名		研 修 目 的	対 象
基礎コース	新任オリエンテーション 基礎コースⅠ	①看護部職員として必要な知識・技術を学び、病棟での業務に活かす。 ②看護（療育）の基礎技術、知識、態度を習得するとともに、重症心身障害児（者）の特徴を理解し、安全な看護（療育）を提供する。 ③担当職員として助言を受けながら看護（療育）計画に沿って実践する。	1 年次 悉皆
	基礎コースⅡ	①担当職員として助言を受けながら利用者の看護（療育）の展開に責任を持つ。 ②根拠に基づいた看護（療育）を実践する。	2 年次 悉皆
	基礎コースⅢ	①担当職員として自立し責任ある行動がとれる。 ②根拠に基づいた知識技術とともに、個別的看護（療育）の実践ができる。	3 年次 悉皆
一般コース	プリセプター	プリセプターの役割を理解し、後輩指導に活かす。	職歴 3 年目以降
	在宅支援	重症心身障害児(者)の在宅での生活を知り、在宅支援に活かす。	職歴 4 年目以降
	問題解決	問題解決のプロセスを通し課題抽出、解決能力を身につける。	
	看護診断	看護診断に必要な知識を深める。	
	療育研究	療育上の疑問や問題を科学的方法により検証し、療育の質の向上を図る。	
専門コースⅠ	摂食嚥下障害看護	摂食嚥下障害看護の指導的役割を果たす。	基礎コース修了者 (看護師)
	呼吸管理	呼吸管理の指導的役割を果たす。	
専門コースⅡ	療育活動	ムーブメント活動における指導的役割を果たす。	基礎コース修了者 (保育士・指導員)
管理コース	昇任時主任研修	主任としての役割を理解し、課題を見いだせる。	今年度昇任の主任
	主任研修	主任としての役割を自覚し、課題に取り組む。	主任
	係長研修	管理について学び、職員指導に活かす。	係長

■ ゆったり通所でい 第 1 班～プール～ ■

通所係保育士 赤松 宏美

6 月 26 日は今年度で 3 回目の「ゆったり通所でい」となり、通所では恒例の行事になりつつあります…

今年度は 3 班のグループに分けそれぞれ違う企画で「ゆったり通所でい」を行います。第 1 班はプールです。プールの希望は 1 番人気で 13 名の参加がありました。十数年ぶりに入る利用者さん、普段通所の活動では経験することが少ないため前から楽しみにしている利用者さん、浮力を利用し自由に歩行したり泳いだり…それぞれの利用者がそれぞれに楽しみ素敵な笑顔が見られ、私達職員も嬉しい気持ちでいっぱいになりました。

泳ぎ疲れた後はスイーツタイム。あまーいなめらかプリンでお腹も満たされました。いつもより 1 時間 30 分ゆったりと通所で過ごした 1 日があっという間に終わりました。

さて…第 2 班、第 3 班はどんな「ゆったり」になるでしょうか……お楽しみに！



■ カルチャークラブ (生け花) ■

リハビリテーション科作業療法士 内野 強

5 月 20 日、この時期恒例の生け花体験「カルチャークラブ」が開催されました。この生け花体験は、主に入所の方々を対象に生花に直接触れる体験をしていただき、彩りや香り、触った感触や会場の雰囲気を楽しみ、日常生活の幅を広げられるよう取り組んでいます。

今年の参加メンバーはリハビリテーション科グループ訓練の「レディース」、「ボーイズ」、「歩歩歩 (ほほほ)」の 15 名の皆さんです。参加者はプレイルームに集まり、それぞれが気に入った花と花器を選びました。会場の BGM はジャズが流れ、落ち着いた大人の雰囲気の中で始まりました。はさみで茎を切る方、剣山にさし込む方、スタッフのお手伝いで形作る方、参加の仕方は様々ですが、お話をしながら楽しく作業を進めていきました。完成した作品はエントランスホールに展示しました。皆さんの力作、見ていただけましたか？

お気づきになった方もいると思いますが、今年は特に百合の香りがエントランスホール全体に立ち込めていました。やっぱりお花を愛でるのって、心が和みますねエ…

来年のカルチャークラブも、どうぞお楽しみに！



多摩スマイル吹奏楽団演奏会

第 2 病棟指導員 松永 正人



6 月 21 日の午後 2 時から 1 時間、プレイルームでの演奏会をしていただきました。利用者さんがコンサートにお出かけするのは、なかなか難しいものです。①コンサートは夜が多い。②静かに聴かなければいけない。③知ってる曲に出会えない。そんな私たちにとって、ボランティアによる演奏会は、全ての条件をクリアする、とてもありがたい機会となっています。



特に今回の演奏会の曲目は、懐メロからアニメ、演歌など幅広く、聞き覚えのある、聞くと思わず口ずさんでしまうような、体が勝手に動いてしまうような曲のオンパレード♪

指揮の体験コーナーでは、各病棟から 1 名ずつ参加し、計 4 曲のアニメソングを演奏してくれました。利用者さんのタクトを振る、とても嬉しそうな表情も印象的でした。

全病棟から集まった総勢 100 名弱の利用者さん、手を叩いたり、歌ってみたい、踊ってみたい、周りに気兼ねすることもなく、自由に楽しい音楽の時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

行事とボランティア募集のご案内

生活支援科長 森 謙二

平成 26 年度の主要行事は、第 76 号でご案内のとおりになります。今年度は 3 月から実施している外壁防水工事の関係で、大行事の「夏まつり」、「東大和フェスティバル」は、一部制限を設けての開催となります。

建物周囲に設置されている足場やグラウンドの囲い等、どうしても例年どおりというわけにはまいりません。委員一同、検討を重ね工夫を重ねながら、利用者の皆様に楽しんでいただけるよう準備を進めております。ご不便をおかけする点もあるかもしれませんが、ご参加くださる皆様のご理解とご協力が必要になりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

利用者・ご家族・地域の皆様の多数のご参加をお待ちしております。

☆また、お手伝い・ご参加・ご出演いただけるボランティアさんを募集しています☆

お知り合いの紹介も歓迎です。詳細はホームページ (<http://www.hmc-smid.jp/>) をご覧ください。

第 22 回夏祭り

日時 平成 26 年 8 月 8 日 (金) 16:30 ~ 19:30
場所 東大和療育センター
内容 模擬店、ステージ、ゲーム、打ち上げ花火等

第 5 回東大和療育センターフェスティバル (略称: 東大和フェスタ)

日時 平成 26 年 10 月 18 日 (土) 10:00 ~ 15:00
場所 東大和療育センター
内容 未定



■ 平成 26 年度 日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会 ■

事務長 獅子野 秀美

5 月 15 日から 2 日間、鹿児島市内で開催されたこの協議会に、倉田院長、桑原看護部長とともに参加してきました。本協議会は、120 を超える全国の重症児者施設が加盟する公益社団法人日本重症心身障害福祉協会が主催するもので、今年は約 380 人の施設長、看護部長、事務長、行政担当者が出席しました。

厚労省室長補佐からの行政説明に続き、主催協会の岡田喜篤理事長による「新生公益社団法人をめぐって」と題する「基調講演」が行われました。

岡田理事長は「小林提樹、糸賀一雄、草野熊吉、北浦雅子の 4 人の先達らによって、昭和 40 年に全国重症心身障害児施設経営団体連合会が設立されたことに、本協会の歩みの源を、見いだすことができます。その後、児童福祉法の改正（重症児施設の法定化）を受け社団法人日本重症心身障害児福祉協会（昭和 52 年）となり、超重症児実態調査、重症児の療育指針、療育マニュアル、通園マニュアルの策定等をとおして、全国で重症児者への支援に取り組む多くの人たちへ、重要な情報発信を今日まで続けてきました。平成 20 年の「公益法人三法」施行に伴い、本協会は、加盟施設だけでなくより多くの重症児者の利益のために、公益社団法人となる選択を敢えて行いました」と、協会のこれまでの歩みを振り返りました。その上で岡田理事長は「重症児者への医療、福祉、教育は、人が生存する限り欠くことのできない、社会的インフラです」と強く主張され、最後に「児者一貫の意味、動く重症児施策、超重症児へのトータルな支援方策などが、今後見極めなければならない課題です」と指摘されて、講演を終えられました。

続いて、九つの専門委員会からこの一年間の取組みについての報告が行われ、それに対する質疑等が交わされました。

「医療問題検討委員会」からは、今般の診療報酬改定による重症児者施設への影響が報告され、活発な討論が行われました。その際、守る会の北浦雅子会長が厚労省の保険局長をご自身で訪問され、直接要望されたことにより、「療養病棟入院基本料に係る経過措置」が今年度以降も継続されることになった、というエピソードが、北浦会長への深い感謝の気持ちを添えて、紹介されました。

「人材育成・研修委員会」からの報告では、「協会認定重症心身障害看護師」の認定審査のあり方をめぐって、熱い議論が交わされました。

「ガイドライン特別委員会」からは、「新版重症心身障害療育マニュアル」の編集を進めていること、従来の療育マニュアル及び通園マニュアルを大改訂し一本化すること、重症児者を支援する様々な関係者のガイドラインとなるものを目指すこと、今年中にも発刊の予定であることの報告がありました。

協議会の前日 5 月 14 日には、施設職員の労をねぎらうため、公益社団法人日本重症心身障害福祉協会の平成 26 年度永年勤続者表彰式が行われ、当センターからは 6 人の職員（別記）が表彰を受けました。

今回の参加を通じて、センターの管理職としての意識を一層高め、火の島桜島の偉容を眺めながら、機上の人となりました。



■ ■ 第 56 回日本小児神経学会学術集会に参加して ■ ■

医局 平山 恒憲

5 月 29 日から 31 日まで、浜松で開催された小児神経学会に参加してきました。当センターから西條医師から「エクソーム解析により確定診断したムコリピドーシス IV 型の 1 例：臨床経過と病理所見」の発表がありました。

長期にわたって当センターでの療育・医療の末、その命を全うされた方から、新たな医学的知見を得ることができた貴重な症例報告でした。ここにあらためて病理解剖を許可していただいたご家族に深謝いたします。

この学会では、新生児医療から重症心身障害医療、発達障害を含めて小児神経疾患全般を扱います。それも臨床から遺伝子・酵素など基礎医学まで幅広く発表があります。従って、毎年新たな医療・研究が発表され、人気のある会場では立ち見です。今回の学会では、これまで以上に発達障害、特に AD/HD（最近、注意欠陥・多動障害とは言わなくなって、注意欠如・多動症（障害）と言うようになりました）などの研究発表が多く見られました。しかし、会員数が 4000 人を超えることもあって会場が非常に広く、ほんの一部の発表しか聞くことが出来ませんでした。あらためて小児神経疾患の奥の深さを感じた学会でした。今後も我々は、新たな医学的情報に遅れないように精進し、センター利用者に還元できるようにしたいと肝に銘じ、帰路につきました。

■ ■ 国際協力事業団から外国の方の見学を受け入れました ■ ■

副院長 鈴木 文晴



7 月 3 日、外国の方 3 名が見学にみえました。お名前と出身国、専門分野は以下の通りです。イヴァナさん（パナマ、臨床心理）、ガワさん（タイ、福祉）、ニコラスさん（ジンバブエ、福祉）。3 名の方は国際協力事業団の招へいにより日本滞在中で、知的障害福祉の勉強をされています。

筆者がまず当センターの概要をお話しし、外来や病棟を見学しました。全身麻酔による歯科治療には、とても関心を持たれ、質問がたくさん出ました。また当センターの建

物がユニークなデザインであることも印象的であったようです。

その後主目的である知的障害の方のリハビリテーションを見学しました。昼食をはさんで約 5 時間、個別指導、グループ指導、作業療法や心理指導など、関心を持って見学されました。実り多い見学になったと筆者は考えます。

国際協力事業団（JICA）は発展途上国支援事業を行っています。（皆さんも青年海外協力隊の名前を聞かれたことがあると思いますが、これは JICA の下部組織です）JICA は毎年世界の各国から本邦の障害者医療・福祉を勉強してもらうために、10 名程度の方を本邦に招へいしています。本邦滞在期間は約半年です。

ご尽力いただいたリハビリテーション科の職員の方々に御礼を申し上げます。忙しい中、ありがとうございました。これからも毎年見学があると思いますので、ご協力のほどをお願いします。

療育活動

センター初！合同院外活動に行ってきました！ 第 4 病棟指導員 田中 智子

4 月 10 日に第 1 病棟と第 4 病棟の合同院外活動として、隅田川のもんじゃ屋形船に乗って来ました。センターからのバスはリフト付き大型バスで添乗員さん付きでした。

合同ということもあり、バスの中ではまず自己紹介をして、「よろしく」とマイクを通して笑顔で挨拶をする利用者さんもいました。現地集合の御家族の皆さんも加わり、総勢 21 名、まずは御家族同士握手を交したり、顔なじみの職員と挨拶を交したり、賑やかなひとときを過ごした後に、屋形船に乗船しました。もんじゃ焼きの食べ放題・飲み放題とのこともあり、まずは必死に鉄板と向き合っていました。自らへうを使ったり、畳にゴロンとしたりしながら、出来たもんじゃ焼を美味しそうに食べる利用者さんが印象的でした。

楽しみにしていた桜は葉桜になっていましたが、天候にも恵まれ、皆で屋形船からスカイツリーを眺めたりして、2 時間半の船旅をゆっくり堪能することができました。合同で行なうという初めての試みではありましたが、利用者・御家族・職員ともに交流できる良い機会になりました。是非また実施できればいいと思います。



「スタートダッシュ！！」

第 3 病棟指導員 東山 美保

5 月 16 日、第 3 病棟では今年度最初の院外活動に出掛けました。天気は快晴！！日差しが暑いくらいでした。

マイクロバスでまず向かった先は狭山市立智光山公園です。とても大きな公園で沢山の木々が青々と生い茂っていました。森林浴をしながら公園の奥へと進むと、こども動物園がありました。動物園ではひよこ・モルモット・亀・ヤギ・羊を恐るおそる触ったり、「カワイイ♪」と撫でてみたり、その他にも猿・鳥・魚を見て楽しみました。

まだまだ動物園に居たい気持ちもありましたが、お昼ごはんの時間となり、次に向かったのは不二家レストランです。お店の中に入ると出迎えてくれたのはペコちゃんでした☆ せっかくなのでペコちゃんと記念撮影。1 人の利用者さんはペコちゃんのように舌をペロッと出してポーズをとってくれました。昼食はハンバーグにシーフードドリア、海鮮丼を利用者さんそれぞれが食べ、デザートにケーキも食べて大満足でした。

そして、新たなデザートを求めて次に向かったのは坂戸の志村農園です。高速道路を走りお腹休めのドライブ。そろそろ志村農園に着くぞと眺めるとビニールハウスが見えてきました。ビニールハウスの中には真っ赤なみずみずしいイチゴが沢山なっていました。イチゴの種類は 3 種類ほどあり食べ比べをしたり、コンデンスミルクにつけて食べたりと摘みたてのイチゴを満喫しました。

今回の院外活動は公園で動物とのふれあいを楽しみ、農園で季節の味覚を味わうことができ良いスタートができたのではないのでしょうか？！

栄 養 科 行 事 食

栄養科 高岩 美希

栄養科では、日々の生活の中で、楽しみの一つである食事の充実を図るために、行事食を取り入れています。

ひな祭りやお花見、こどもの日、クリスマス会などのイベントにあわせて、また年に数回行われるバイキング食やお誕生日食等、できるだけ利用者さんの気持ちに添った献立を考え、調理スタッフが心をこめてお祝膳を用意しています。

バイキング食は、各病棟担当職員が企画をし、栄養科と打ち合わせをしながら、利用者さんに楽しい時間を過ごしてもらえようその都度頑張っています。

食事形態は多く、主食、副菜は、それぞれ常食、常菜からマッシュ、ペーストまで対応し、個々の利用者さんにあった食形態を提供しています。



こどもの日の行事食には、サフランライス・ケチャップライス・ハンバーグトマトソース・目玉焼き・トマトサラダ・シュリンプスープ・ケーキを用意しました。



編集後記

サッカーW杯の熱い戦いも終わり、いよいよ暑い夏がやってきます。今年は冷夏も予想されていますが、体調を万全にして、仕事やスポーツ、レジャーに思いっきり満喫できる夏になるといいですね。(K.I)

センターも外壁工事中ですが、そよ風も工事中です。生まれ変わる?いや外壁工事かな (PEN)

そよ風第 77 号

編集 院内報そよ風編集委員会
 発行日 平成 26 年 7 月 15 日
 発行 東京都立東大和療育センター
 東京都東大和市桜が丘 3 - 44 - 10
 ☎ 042-567-0222
 印刷 有限会社 はじめ印刷
 ☎ 042-560-3031



東大和療育センターホームページ

東大和療育センター

検索